

森の名手シリーズ29 名手・名手



名人 田中 正利 (86)
岐阜県郡上市
岐阜県立岐阜農林高等学校一年
平成21年取材

白鳥の苗づくり先生

苗木生産

聞き手 成瀬衛

「森の名手名人」とは、森に関わる仕事をや地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもつてその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在42名の「森の名手・名人」があります。この「森の名手・名人」を「森の聞き書き甲子園」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢・住所・学年は取材当時のものです。

1. 県営苗畠の開設

戦後は焼け野原になつた都市の復興のために、残つていた森林は殆ど伐り尽くされ、丸裸になつた山はいつ災害が発生するかもしれない状況でした。昭和20年代半ばに高まりましたが、県内の苗木生産業は少なく、隣県から買い入れて植林しておつたんです。植林を進めるうちに、造林地に近いところで養成した苗木が良いことが分かり、県内各地に県営苗畠が開設されるようになります。郡上地方事務所管内では、終戦以来大平地内で原野を開拓していた私を中心屋区長さんが育苗夫に推薦されて、私の開拓地と隣接地を借地、1町2反の面積で、昭和27年春に県営白鳥苗畠が発足しました。

のです。

それから年々面積を増やし、採穂園を造成してスギ挿木苗の生産が盛んになつたんです。昭和36年白鳥町中津屋上野で12町歩余の県有地を取得し、林木育種事業地を造成して、林木の品種改良に着手して、スギ、ヒノキ、アカマツの耐雪性、耐寒性、無花粉樹、マツクイムシ抵抗性を備えた母樹林の造成と、苗木の育成が進んでいます。

2. 6年かかるよ

土づくりの後から本格的な作業が始まります。1年目は母樹に結実促進処理を行います。ジベリン100ppmを7月中旬に1回散布して、雄花をつけます。8月中旬に2回目散布して、雌花をつけます。2年目の3月に受粉して、10月に結実、その種を取つ

て精選して、3年目の4月に種まきをします。この種をまいた物は、冬霜よけなどをして冬越しして、4年目の4月に植え替えをします。これは1回床替といって、植え替えをして育て、10月になつたら掘り取りして、仮植をしておきます。そして5年目の4月に2回床替を行います。2回床替を行つたものは、その10月に掘り取りをして、山行き苗になるわけです。厳重に選良して、病害虫の被害のない、いい苗木を規格別に選良して、仮植しておいて造林者へ出荷します。5年目の秋から6年目の春まで苗木の出荷が続くわけです。

3. 生産力の向上

岐阜県は、雪の害が多い所ですので、雪に強い品種を選抜して母樹にして、それを成長させます。1年目は母樹に結実促進処理を行います。ジベリン100ppmを7月中旬に1回散布して、雄花をつけます。8月中旬に2回目散布して、雌花をつけます。2年目の3月に受粉して、10月に結実、その種を取つ

たんだん氣根ができるようになつたんです。まだ営みのうち、優れた技をもつてその業を極め、他の模範となつた達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在42名の「森の名手・名人」があります。

この「森の名手・名人」を「森の聞き書き甲子園」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢・住所・学年は取材当時のものです。

4. 良い木を選抜

積雪寒冷地に適応する苗木を育てようと、抵抗性品種の育成が始まつたんです。私が選抜に携わったのは、関ヶ原。あそこは多雪と、寒風による凍害も非常に起きつたんです。そこから始めて、揖斐郡の坂内とか、徳山とか、冠山の冠峰からだんだん北に上つてきて、白鳥町の福井県境、それから石徹白地内。豪雪地帯で、4mも5mも雪の降る所なんですけど。それから白川村。白川村には、「雪に強いこと日本一」という、芦倉スギという品種もあつたんです。清見村、上宝村、まあ北の方は乗鞍山地の辺まで選抜したんです。

選抜された本数が、耐雪、耐凍まで、合わせてスギだけで120個体。ヒノキが60個体。アカマツが20個体。合計200個体の抵抗性品種を養成したんです。その品種は、苗木をつくつて、各地に検定林をつくつて、植え込んで、どの個体が一番この地方に合うかという検定をしておるんです。

種取りをしておるんです。

林業センターを退職してから、もう1回種から選んで、よい石徹白スギの苗木づくりをして今までの造林地に植え替えてもらいたいと、そんな願いをもつたんです。それで同志をつのつて、郡上山林種苗組合を設立して、石徹白の苗木づくりを始めたんです。まず、退職した昭和56年から石徹白へ入つて、石徹白の原生林のなかで100年も経つたような優れた木を選んで、母樹にしたんです。当時は、組合に苗の貯蔵施設がなく、毎年種がまける状態にしなければならないということをつけて、郡上山林種苗組合を設立して、石徹白の苗木づくりを始めたんです。まず、白の原生林のなかで100年も経つたような優れた木を選んで、母樹にしたんです。当時は、組合に苗の貯蔵施設がなく、毎年種がまける状態にしなければならないということがまるで、ジベリン処理をして結実の促進をし、苗木の増産をしたんです。

種取りは大変でしたな。高い木になりまと25mも30mもあります。しかしそれくらいの大きい年齢の木でないとよい種は取れません。自分の手の届く範囲の、抱きかかえる程度の木ですと、自分で登つて種を取ります。けどそれ以上の大木になると種が取れません。そういう時は木登り名人に頼んで、種取りをお願いして種を取つたんです。

林業センターを退職してから、もう1回種から選んで、よい石徹白スギの苗木づくりをして今までの造林地に植え替えてもらいたいと、そんな願いをもつたんです。それで同志をつのつて、郡上山林種苗組合を設立して、石徹白の苗木づくりを始めたんです。まず、白の原生林のなかで100年も経つたような優れた木を選んで、母樹にしたんです。当時は、組合に苗の貯蔵施設がなく、毎年種がまける状態にしなければならないといつて、苗木の増産をしたんです。

種取りは大変でしたな。高い木になりまと25mも30mもあります。しかしそれくらいの大きい年齢の木でないとよい種は取れません。自分の手の届く範囲の、抱きかかえる程度の木ですと、自分で登つて種を取ります。けどそれ以上の大木になると種が取れません。そういう時は木登り名人に頼んで、種取りをお願いして種を取つたんです。

林業センターを退職してから、もう1回種から選んで、よい石徹白スギの苗木づくりをして今までの造林地に植え替えてもらいたいと、そんな願いをもつたんです。それで同志をつのつて、郡上山林種苗組合を設立して、石徹白の苗木づくりを始めたんです。まず、白の原生林のなかで100年も経つたような優れた木を選んで、母樹にしたんです。当時は、組合に苗の貯蔵施設がなく、毎年種がまける状態にしなければならないといつて、苗木の増産をしたんです。